

特集・学園めぐり□愛知学院大学

# 愛知学院大学と建学の精神

学長・医学博士 小出 忠孝

明治九年に創立された愛知学院大学は、中部圏で最も古く、由緒ある学園として発展してきた。現在では、文学部の宗教学科・心理学科・

歴史学科・国際文化学科・日本文化学科の五学科の他、商学部・経営学部・法学部・歯学部それぞれ一学科を配し、五学部九学科、学生総数およそ一万三千名の総合大学となっている。

さらに平成六年四月、大学院経営学研究科と文学研究科日本文学専攻に博士課程（後期）が認可されたことにより、本学では全学部全学科の

上に大学院博士課程が設置され、文字通り大学院大学としての体制が完了した。

このように本学は社会の動きを的確に把握し、それに即応した教育活動を推進するとともに、時代が求める高い人間性の養成にも努めている。その背景となっているのが、仏教精神である。

曹洞宗の設立による愛知学院大学は宗祖道元禪師の教えにしたがい、『行学一体 報恩感謝』という建学の精神を教育の根幹として学生の人格形成に努め、さらに感謝の心を持った学生を世

に送り出してきた。

仏教の基本は慈悲と智慧の二語に凝縮するこ  
とが出来た。これを教育的に解釈するならば、  
慈悲とは他人を思いやる心であり、智慧とは豊  
かな知識をもとに、物事を正しく判断、処理す  
る能力を意味すると言えよう。すなわち、学業  
と人格形成とを教育の両輪として重視する点に、  
本学の特徴があるのである。慈悲の気持ちは、  
親族・縁者に限定されることなく、人類すべて、  
ひいては生きとし生けるものすべてに及ぶべき  
ものである。この気持ちこそ、真の意味での国  
際化や環境の問題に有効で明確な解答をもたら  
すのではないだろうか。さらに仏教の智慧とは、  
単なる知識の集積ではなく、悟りを直観する先  
天的な知力を意味する。この知力こそ、複雑で  
錯綜した情報社会にあって、真に必要な情報を  
取捨選択するに必要とされるものであろう。

現在、本学は大学院大学としての高度の教

育・研究の中心となっていると同時に、社会人  
教育・生涯学習に対する時代の要請に応え、公  
開講座や全国私学の中でも初めての取り組みと  
して注目を集めているラジオ放送講座の一層の  
充実にも努めて、社会全体に奉仕、貢献してい  
る。

さらに二十一世紀の超情報化社会に対する教  
育・研究をどのように行うべきか、その対策を  
検討し、体制を整えるべく教・職員一丸となっ  
て取り組んでいる。

(横浜善光寺留学僧育英会顧問)

